

# 30amG-146

「乳鉢」の語源を示唆する中国古典籍

○五位野 政彦<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京海道病院薬)

【はじめに】 乳鉢は薬学の重要な器具の一つである。しかしその語源は明確でない。演者は過去に、明治7年の書籍にわが国で「乳鉢」の語が使われ始めたことを報告した(薬史学雑誌;2012:90-93)。今回、中国古典籍の中の「乳鉢」の語を報告し、その語源の仮説を提起する。

【方法】『大漢和辞典』(大修館書店)『漢語大詞典』(上海辞書出版社)中の「乳」「乳鉢」の語を検索し、その用例の中国古典籍を調査した。

【結果】 次の作品に「乳鉢」の語が見られた。(1)洪邁『容齋四筆・雷公炮炙論』“症塊者，以礪砂、硝石二味，於乳鉢中研作粉“(序)ほか「芒硝」「曾青」「磁石」，(2)『宣和書譜』唐處世南行書”借乳鉢一帖”(卷八 行書二)，(3)朱熹『乳餅詩』“清朝薦疎盤，乳鉢有真味。”，(4)『本草綱目』，薰陸香乳香，“以乳鉢坐熱水中“，”在壁內奉乳鉢“，(5)『西遊記』第六九回：“醫官聽命，即將八百味，每味三斤……並乳鉢、乳槌之類都送至館中。”，(6)『紅樓夢』第二八回：“我沒法兒，把兩枝珠花兒現拆了給他，還要了一塊三尺上用大紅紗去，乳鉢乳了隔面子呢”。『紅樓夢』人民文学出版社版の解説には「把藥研細叫乳」とある

【考察】 これらには乳鉢の形状に言及しているものはない。明治7年に mortie を翻訳した漢学者保田東潜は、その形状からではなく使用目的からこの語を「乳鉢」としたと考えられる。「粉にする」(雷公炮炙論)、「乳のように細かくする」(紅樓夢解説)の用例から「乳」の意味を「柔嫩」としてみる。この器具の名称は固いものを柔らかくすることが由来であるとする仮定した場合、「乳」は液状のもの(乳汁等)ではなく、女性の乳房の意味であると考えてよい。今後、器具の形状等について中国の薬史学研究者との研究連携が必要である。